

報道関係者各位

2025年7月30日

企画展「フォルモサ∞アート——台湾の原住民藝術の現在（いま）」
Thematic Exhibition “Formosa ∞ Art: Contemporary Indigenous Art from Taiwan”
2025年9月18日(木)～12月16日(火)

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、企画展「フォルモサ∞アート——台湾の原住民藝術の現在（いま）」を2025年9月18日(木)から12月16日(火)まで開催します。



展覧会について

台湾にはもともと住んでいるという意味の「原住民族」という公称をもつ先住民族がいます。本企画展では国際的なアートシーンでも高い評価を得ている12名の「原住民藝術家」の作品を紹介します。原住民藝術家の作品には、個人や集団の記憶が民族のアイデンティティをとめない色濃く表現され、強い抗議や社会運動の色彩を帯びることもあります。また、祖霊や神話、祭礼や慣用してきた文様が作品の重要なモチーフとなり、原住民族のくらしや文化を育んできた大地や大海との対話が創作活動の支柱となっています。

企画展のタイトルのフォルモサ（Formosa）は、台湾の美しさ^{かんたん}に感嘆した大航海時代のポルトガル人の「Ilha Formosa（^{うるわ}麗しの島）」という言葉に由来します。継承されてきた伝統文化、現代化にともなう先住民族文化の喪失^{そうしつ}、地球や世界が抱える環境破壊や格差問題など、アートを通して無限に広がる台湾原住民族の世界をお楽しみください。

本展のみどころ

本展示会では台湾の展覧会だけでなく、ヴェネツィア・ビエンナーレやアジア・パシフィック・トリエンナーレ(APT)など、国際的な現代美術展に出展し、国際的な認知度も高い原住民族アーティスト12人が一堂に介します。出展作品は油彩やマーカー画、線刻画、木彫や金属塑像、織物、陶芸等、様々なメディアによるアーティストたちの代表作や新作です。また、インスタレーションや映像を通じた躍動感ある作品も出展予定です。

展示構成

1. 神話、伝説、ファンタジー

台湾原住民族の神話や伝説には、人類と宇宙万物との関係が隠されているだけでなく、他の生態的な存在と共生する智慧とファンタジーも内包する。創造される自然は、敬虔な生活を学ぶための出発点であり、文様や色彩を学ぶ教室でもある。原住民族の芸術表現には天地自然の法則と調和した関係が保たれ、芸術による再現を通じた文化の語彙は原住民族の文化生活の価値を証明する。

クルル・ルラダン (Kulele Ruladen)、ユマ・タルー (Yuma Taru)、マスグスグ・ジンルル (Masegeseg Zingerur)、イタン・パヴァヴァルン (Etan Pavavalung) の4人のアーティストは、神話や伝説、文化や言語、祖霊の召喚、原初の生態などの作品を織り交ぜ、原住民族の創始の起源と永続する存在の生命観を表現する。そして、伝統文化の採集技術と現代の科学技術や機械との結びつきを通じ、複雑な世界の中でいかに貴重な古来の祖先の智慧と霊的な帰属を維持できるのかを問いかける。



ガラスビーズの誕生
クルル・ルラダン、2023

2. 記憶、苦難、再生

台湾原住民族は過去百年に近い歴史の中で、植民地支配の歴史的な痛みを経験しその傷跡が残されてきた。植民地支配によってもたらされた、いわゆる現代文明の支配は、原住民族の言語、文化、そして伝統の自主性を消し去り、環境との共生倫理から生まれた知識体系も変えてしまった。1980年代の「原住民族運動」は、原住民族の新たな自覚と脱植民地主義の意識を開き、芸術の発展の新たな原動力となった。

シキ・スフィン (Siki Sufin)、アダン・ダルジャルン (Adan Dalujalung)、アルアイ・カウマカン (Aluaiy Kaumakan)、ニタン・タキヴァリ (Nitjan Takivalit) らは、台湾原住民族の異郷で戦死した若者、少女売春の人身売買、さらには台風災害、強制移住、そして衰退といった重要な出来事や記憶を表現する。作品はその悲しみに満ちた歴史を振り返ると同時に、束縛からの解放を試みる。民族の仲間や家族が再び悲惨な境遇に陥ることを防ぎ、傷跡を縫合する力と持続的な再建の生命の種子を探し求める。



禁錮
アダン・ダルジャルン、2019

3. 未来、希望、創造

芸術家が経験する事柄はすべて、台湾原住民族の生活の縮図である。その作品が作り出す対話の場では、互いが共有する共通の文脈と歴史の記憶を悟ることになる。芸術は人と人を結ぶ関係の糸であり、人類が向き合う現代の思考や潮流を省察する礎を作る。原住民族の現代芸術の未来への道に求められるのは、新たな芸術の語彙を不断に想像していくこと、そして、人と人、人と自然との新たな絆を真摯に再構築していくことである。

パタダ・アルツァン (Patadalj Arucanglj)、シャマン・ミスラコ (Syaman misrako)、ミレイ・マヴァリウ (Milay Mavaliw)、イダス・ロシン (Idas Losin) の作品は、伝統的な線、複雑な文様、スタイルや色彩、特殊な記号などの要素を融合させ、伝統的な基盤を備えながら未来的な感覚を失わないものである。また、継承の危機に応え、海洋民族の栄光を再興することを提唱する。過去の歴史への反省を重視し、積極的で自信に満ち、観察し検証する姿勢をもって、台湾原住民族の生活美学を創造し実践する。



16 族のトーテム「クヴァラン族」
ミレイ・マヴァリウ、2013-2022

出展アーティスト

ユマ・タルー (Yuma Taru)
クルル・ルラダン (Kulele Ruladen)
マセグセグ・ジンルル (Masegeseg Zingerur)
イタン・パヴァヴァルン (Etan Pavavalung)
ニタン・タキヴァリ (Nitjan Takivalit)
シキ・スフィン (Siki Sufin)
アルアイ・カウマカン (Aluaiy Kaumakan)
アダン・ダルジャルン (Adan Dalujalung)
パタダ・アルツァン (Patadalj Arucanglj)
ミレイ・マヴァリウ (Milay Mavaliw)
シャマン・ミスラコ (Syaman misrako)
イダス・ロシン (Idas Losin)

資料点数

26点

プロジェクトリーダー 野林 厚志（国立民族学博物館 教授）



専門は人類学。フォルモサ研究。研究テーマは台湾原住民族のエスニシティ、民族誌データサイエンス、食の文明論。国内外の博物館における展示会も手がける。近著に『現代“間食”考——狭間からみる人類の食』（編著、平凡社 2025）、『パレオアジア新人文化の形成——考古学・文化人類学からのアプローチ』（共編、新泉社 2025）。

プロジェクトメンバー

末森薫（国立民族学博物館准教授）

寺村裕史（国立民族学博物館准教授）

奈良雅史（国立民族学博物館准教授）

田本はる菜（成城大学専任講師）

宮岡真央子（福岡大学教授）

林威城（順益台湾原住民博物館副館長）

林佳慧（順益台湾原住民博物館主任）

開催概要

展 示 名	企画展「フォルモサ∞アート——台湾の原住民藝術の現在(いま)」
会 期	2025 年 9 月 18 日（木）～ 2025 年 12 月 16 日（火）
会 場	国立民族学博物館 本館企画展示場
開 館 時 間	10:00～17:00（入館は 16:30 まで）
休 館 日	水曜日
観 覧 料	一般 780 円（660 円）、大学生 340 円（270 円）、高校生以下無料 ※（ ）は 20 名以上の団体料金／リピーターは団体料金を適用 ※本館展示の料金でご覧いただけます
主 催	国立民族学博物館
共 催	順益台湾原住民博物館（台湾）
協 力	公益財団法人千里文化財団
後 援	日本文化人類学会

関連イベント

■シンポジウム

「ファンタジーから未来へ——台湾原住民族アートの新たな地平」
(從幻想邁向未來——臺灣原住民族藝術的新地平)

会 場	国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）	 企画展の準備のため、日本・台湾の共同チームが作家の工房を訪問した時の様子。 (撮影：展示準備グループ、2025 年)
日 時	2025 年 9 月 18 日（木）13:30-16:45	
語り手	野林厚志（国立民族学博物館教授）、 出展アーティスト	
定員 参加方法	詳細は決まり次第 HP にて公開します。	
内 容	開幕にあわせて、原住民族アーティストが来日し、作品や創作活動にかける思いをお話します。	

■みんなくゼミナール

「台湾原住民族アート史」

会 場	国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール（講堂）	 企画展の内容を相談する原住民族藝術家 (撮影：野林厚志、2025 年)
日 時	2025 年 10 月 18 日（土） 13:30~15:00（13:00 開場）	
話 者	野林厚志（国立民族学博物館教授）	
参加方法	当日参加申し込みのみ	
定 員	400 名	
参加費	無料	
内 容	企画展に出展している台湾の原住民族藝術家とその作品を中心に紹介します。台湾のなかだけではなく、国際的にも知られるようになっている台湾原住民族アートの歴史について解説します。	

■みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

「FF（フォルモサ・ファンタジー）2025 —— 台湾原住民族の世界観」

会 場	国立民族学博物館 本館展示場（ナビひろば）
日 時	2025 年 10 月 19 日（日）14：30～15：00
話 者	野林厚志（国立民族学博物館教授）
定 員	なし（ご自由に参加いただけます）
参 加 費	要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内 容	台湾の原住民族藝術は、個人の記憶や民族としての歴史を表現する重要な手段であり、作品には自然や祖霊との深いつながり、植民地的支配によって受けた苦しみや抵抗の思いが込められています。出展作品のいくつかを文化的、歴史的な背景とともに紹介します。

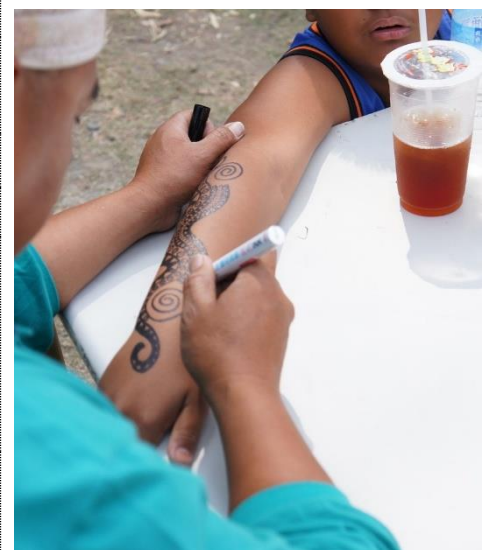


自ら開設した「百歩蛇の天空工作室（工房）」で作品を紹介するパタダ・アルツァン（秦榮輝）氏（撮影：野林厚志、2025 年）

■友の会講演会

「『原住民藝術家』として語る／語らない人びと」

会 場	モンベル御徒町店 4 階サロン【東京】
日 時	2025年11月2日（日） 13：30～15：00（13：00開場）
講 師	田本はる菜（成城大学専任講師）
定 員	50名
参 加 費	会場参加のみ ・事前申込制（先着順） ・友の会会員、モンベル会員：無料、 ・一般：500円
問 合 せ	国立民族学博物館友の会（公益財団法人千里文化財団） 電話 06-6877-8893



子どもに乞われて腕にマジックで描くアーティスト（撮影：田本はる菜、2013 年）

■ワークショップ

みんぱく Sama-Sama（サマサマ）塾

会 場	国立民族学博物館 本館第 5 セミナー室、本館企画展示場	 世界の文化や民族についての講義
日 時	2025 年 9 月 23 日（火・祝） 13:15～15:30（12:30～受付開始）	
講 師	野林厚志（国立民族学博物館教授）	
対 象	中学生以上の知的障がい者（保護者・付き添い同伴）	
参 加 費	無料	
定 員	20 名程度	
応募方法	事前申込制 参加希望者は下記問い合わせ先に連絡	
受付期間	7 月 23 日（水）～ 定員に達し次第締め切り。	
問 合 せ	国立民族学博物館「みんぱく Sama-Sama 塾」担当 sama-sama@minpaku.ac.jp	

企画展「フォルモサ∞アート——台湾の原住民藝術の現在（いま）」 広報用画像リスト



【1】企画展チラシ



【2】私たちの喜びの樂園
イタン・パヴァヴァルン、2024



【3】命の廻旋VIー布のような舌
ユマ・タルー、2021



【4】歲月
パタダ・アルツァン、2024



【5】かげりゆく制度
マスグスグ・ジンルル、2016



【6】翼の表象
シキ・スフィン、2025



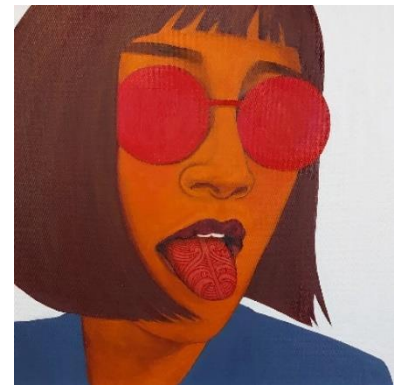
【7】16 族のトーテム「アミ族」
ミレイ・マヴァリウ、2013-2022



【8】愛と希望
ニタン・タキヴァリ、2020



【9】ガラスビーズの誕生
クルル・ルラダン、2023



【10】アオテアロアⅡ
イダス・ロシン、2024

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

広報用画像利用申込用紙

--

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所 〒	E-mail
電話番号	FAX番号
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合	
	年 月 日

10